

# 「じじろ」3 私の策略とKの覚悟②

K

① 142 下 3 「罪のないKは穴だらけというよりむしろ明け放しと評するのが適当なくらいに無用心でした。私は彼自身の手から、彼の保管している要塞の地図を受け取って、彼の目の前でゆっくりそれを眺めることができたと同じでした。」

○「穴だらけ」と「明け放し」の違いは何か？

○どうしてKは無用心なのか？

② 142 下 8 「Kが理想と現実の間に彷徨してふらふらしている」○「理想」「現実」は何を指しているか？

理想

現実

⑤OKの第一信条

⑥ 143 下 6 「私が反対すると、彼はいつでも気の毒そうな顔をしました。そこには同情よりも侮蔑のほうがよく現れていました。」○私は何に反対し、Kはどうして侮蔑の表情を浮かべたのか？

⑦ 143 下 9 「こういう過去を二人の間に通り抜けてきているのですから、精神的に向上心のない者はばかだという言葉は、Kにとって痛いにちがいませんでした。」○ふんわり「痛さ」は何か？

私

○この時の私の精神状態はどのようなものか？

③ 142 下 10 「ただ一打ちで彼を倒すことができようという点にばかり目をつけました。そうしてすぐ彼の虚につけ込んだのです。私は彼に向かって急に厳粛な改まった態度を示し出しました。」

○「彼の虚」とは何か？

○どうして「厳粛な改まった態度」になったのか？

④ 142 下 15 「私はまず『精神的に向上心のない者はばかだ。』と言い放ちました。これは二人で房州を旅行している際、Kが私に向かって使った言葉です。私は彼の使ったとおりを、彼と同じような口調で、再び彼に投げ返したのです。しかし決して復讐ではありません。私は復讐以上に残酷な意味を持つていたということを自白します。私はその一言でKの前に横たわる恋の行く手をふさぐとしたのです。」

○どうしてKと同じ言葉を同じ口調で言ったのか？

○「じじろ」復讐とは何の復讐か？

K

⑧「下」しかし前にも言ったとおり、私はこの一言で、彼がせつかく積み上げた過去を蹴散らしたつもりではありません。かえってそれを今までどおり積み重ねてゆかせようとしたのです。それが道に達しようが、天に届こうが、私はかまいません。」○「彼がせつかく積み上げた過去」とは何か？どうしてそれが「恋の行く手をふさぐ」となるのか？

⑩「上」『ばかだ。』とやがてKが答えました。『僕はばかだ。』／Kはぴたりとそこへ立ち止まったまま動きません。彼は地面の上を見つめています。」

⑪「上」『しかしそれにしては彼の声がいかに力に乏しいということに気がつきました。』○「それ」の指すと「ろは」？

○「カ」は「ろは」からどうなのかな？

⑫「上」『もうその話はやめよう。』と彼が言いました。彼の目にも彼の言葉にも変に悲痛なところがありました。私はちよつとあいさつができませんでした。するとKは、『やめてくれ。』と今度は頼むように言い直しました。○「Kはどうして悲痛なのかな？」

⑭「すると彼は卒然『覚悟？』とききました。そうして私がまだなんとも答えない先に『覚悟、——覚悟ならぬこともない。』とつけ加えました。彼の調子は独り言のようでした。また夢の中の言葉のようでした。」○「独り言のよう」「夢の中の言葉のよう」という比喩表現はそれぞれどういう口調を表しているかな？

独り言のよう

夢の中の言葉のよう

私

⑨「上」『私はただKが急に生活の方向を転換して、私の利害と衝突するのを恐れたのです。要するに私の言葉は単なる利己心の発現でした。』○「私の利害と衝突」とはどういうことかな？

○「利己心の発現」とはどういうことかな？

⑭「上」『私は思わずぎよつとしました。私にはKがその刹那に居直り強盗のごとく感ぜられたのです。○「居直り強盗の」とく「どうする」と思ったのか？

僕はばかだから（

⑬「やめてくれって、僕が言い出したことじゃない、もともと君のほうから持ち出した話じゃないか。しかし君がやめたければ、やめてもいいが、ただ口の先でやめたってしかたがあるまい。君の心でそれをやめるだけの覚悟がなければ。いったい君は君の平生の主張をどうするつもりなのか。』○「それをやめる覚悟」とは何をやめる覚悟かな？

○「どうして」の言葉が致命傷を与える「残酷」なものかな？